

〔1番 岡村 歩さん登壇〕

○1番(岡村 歩さん) 岡村 歩と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

テーマが2つあり、急ぎ足になりますが、お願ひいたします。

最初に、産む場所の提供・誘致についてです。島田市では婚活事業、移住者への補助、待機児童ゼロ達成など、島田市に住みたい、育てたいにつながるすばらしい事業がたくさんあります。しかし、肝心の産む場所がありません。自分の住んでいる街で安心して子供を産めるという環境が必要だと思っています。私は地域の分娩施設の一つとして、助産院の誘致を提案します。ハイリスク分娩を病院、自然な分娩を助産院と分担することで、産科の疲弊を軽減することにもつながるものと考えます。また、助産院の役目は分娩のみにとどまりません。助産師が母親の産前産後を一貫して支援し、寄り添うことで、精神的な支えにもなり、また母体や赤ちゃんがみずから産む力、産まれる力を引き出します。妊娠前の女性、もちろん男性も子供たちも自分の体や妊娠、出産についてきちんとした知識を得るための場所にもなり得ると考えます。

そこで、以下について質問します。

(1) 市民病院での分娩取り扱いの再開予定や産科医院の新規開設予定等がありますか。

(2) 新市民病院建設で産婦人科に対する構想があればお聞かせください。

次に、幼少期からの性教育の必要性についてです。現在の子供たちは容易に情報社会にアクセスできる環境にあります。You Tubeで幼児に人気のキャラクターを検索すると、トップに出てくる映像が女性の裸を連想させるものであったりして、性に対する感覚、考え方が私たちの世代とは違ってきています。一方で性犯罪は赤ちゃんのころか

ら男女関係なく被害に遭うと言われています。性犯罪者への質問に対する答えの中で、狙いやすいのは性教育を受けていない子という結果が出ていると知りました。防犯対策にも必要となってくる性教育ですが、親自身が恥ずかしいもの、人には聞けないものとして育ってきた環境の中で、伝え方がわからずにいるのが現状です。子供からのどうやって産まれてくるのといったせつかくの質問に否定的な返答や表情をしてしまうと、子供はその後、二度と聞いてこないでしょう。子供にどうやって正しい知識を伝え、性被害から守るか、また性の悩みや疑問も話し合えるような親子関係を築いていけるか、私を含め多くの母親が悩んでいます。

そこで、以下について質問をします。

(1) 小・中学校または幼稚園、保育所等における性教育の頻度や内容について教えてください。

(2) 助産師や性教育を伝える民間の専門医による保護者向け、子供向けのお話し会を学校や幼稚園、保育所等で定期的に開催していただくことができないでしょうか。

以上で、壇上での質問を終わらせていただきます。

〔1番 岡村 歩さん発言席へ移動〕

○議長(村田千鶴子議員) 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長(染谷絹代) おはようございます。それでは、岡村さんの御質問についてお答えをいたします。

最初に、私から1の御質問について答弁申し上げます。2の御質問については教育長から答弁させますので、よろしくお願ひをいたします。

最初に、1の(1)の御質問についてお答えをいたします。市民病院では平成30年3月末に産婦人科医が退職したことに伴い、平成30年2月より分娩の取り扱いを中止しております。現在、分娩の再開に向けて私や病院事業管理者が定期的に大学

病院へ医師の派遣のお願いに伺うなど、医師確保に努めているところでございます。また、島田市医師会に確認したところ、現在、市内に産科医院の新規開設の予定はないと伺っております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。新病院では産婦人科外来及び病棟を整備してまいります。産婦人科外来は新病院2階に診察室、処置室、授乳室を整備します。産婦人科病棟は新病院5階に個室8室、2人部屋1室、4人部屋8室、合計17室、42ベッドを整備してまいります。また、陣痛室、分娩室、新生児室、未熟児室、沐浴授乳室なども整備し、分娩に対応できる医療機能をそろえてまいります。

以上、答弁申し上げます。

引き続き、教育長から答弁させます。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

〔教育長 濱田和彦登壇〕

○教育長（濱田和彦） 市長に続き、岡村さんの2の(1)の御質問についてお答えします。小・中学校では、体育や学級活動の時間などで性にかかわる授業を行っています。小学校4年生の体育では、思春期に起こる体の変化と、それに伴う心の変化について学んでいます。中学1年生の保健体育では、思春期の心と体の変化や、受精から妊娠の仕組みについて学習をしています。また、学級担任による学級活動の授業では、養護教諭などの協力を得て性教育の授業を行っており、児童・生徒の発達の段階に応じて生命誕生の仕組みやよりよい男女交際などの学習を行っています。幼稚園や保育所等では、身近な動植物に親しみを持って接することを通して、生命の尊さに気づき、いたわったり大切にしたりすることができるような指導をしています。また、園児の興味関心に応じて命の誕生にかかわる絵本の読み聞かせを行ったり、保護者からの相談や必要に応じて個別にアドバイスや指導を行ったりしています。

次に、2の(2)の御質問についてお答えします。

小・中学校では学年や学校単位で助産師や保健師などの専門のスキルを持った方を講師に招いて、思春期の体の変化や生命の誕生にかかわる授業を行っています。これらの取り組みを学校や子供の発達段階に応じて行っております。また、中学校の家庭科では実際に幼稚園訪問を行い、幼稚園教諭に支援をしてもらいながら、保育実習を行っています。さらに社会教育課の取り組みで誕生学協会から講師を招き、妊娠から出産までの赤ちゃんが産まれる過程を学習した後、ゼロ歳児の親子20組に中学校に来てもらい、生徒が赤ちゃんを抱っこして触れ合う体験を行っています。幼稚園、保育所等の取り組みは園児によって発達段階が違うことや、保護者によって考えが異なることもあり、全保護者や全園児向けに定期的に行うことは難しいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問については担当部長から答弁させる場合がありますから、よろしくお願いたします。

○議長（村田千鶴子議員） 岡村さん。

○1番（岡村 歩さん） 御答弁ありがとうございます。それでは、2回目の質問をさせていただきます。現在、志太地区には開業助産院がないと聞いています。子育て支援をしたり、先輩ママとの出会いの場にもなるような助産院の開設ができれば、この地域の先進的な事例にもなり得るのではないかと考えますが、助産院を設置することはできないのでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 岡村さんの助産院についての再質問にお答えをいたします。助産院の開設につきましては、助産師を初めとする人的条件でありますとか、設備面などの物的条件が法的に定められております。そのほか後方支援となる嘱託医師が不可欠となります。産科、そして小児科、さらには新生児の集中治療室を備える総合

病院がこれを担当する場合が多く、医師の確保と  
というような問題もありますことから、助産院の設  
置につきましては困難な状況にあるというふうに  
考えております。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 助産院のこととは直接的では  
ないかもしれませんが、少し産む場所についての  
私どもの今の考え方といいますか、お話をさせて  
いただきたいと思います。産む場所がないという  
ことを言われることは、私にとっても一番つらい  
こと、子育て支援、ぜひ子育てするなら島田市で  
と言っている島田市にとって、産む場所の確保と  
いうのは今、最優先課題であります。一方、1人  
の産婦人科の先生、あるいは2人の産婦人科の先  
生では、しょっちゅう夜中に呼び出しがあったり、  
本当に24時間体制で仕事をしなければいけないと  
いう中で、なかなか産科の先生は来てくださいま  
せん。やはり産科の先生は7人、8人といて、ロ  
ーターションを組んでしっかり休みも確保できる。  
そして泊まりというか24時間、夜中も診る、そう  
いう勤務もできるというような体制の整ったとこ  
ろに多くの産婦人科の先生が集まるのが現状であ  
ります。でも、一つの、例えば島田市民病院に7  
人、8人の産婦人科の先生というのは、なかなか  
難しい話であります。今、私はこの志太地域全体  
の中で周産期医療センターというようなものがで  
きないかということで、広域での連携というもの  
を呼びかけております。どこかに拠点を置いて、  
志太榛原の地域がそれを支援することで、先生方  
をそこに集中的に集めることができれば、産婦人  
科の先生方にとっても働きやすい場を確保するこ  
とができるのではないかと。もうそこまでいかないと、  
なかなかそれぞれの市民病院で産婦人科の先  
生を十分に確保して、ローテーションを回してい  
くということが難しいというのが全国的な産婦  
人科の先生の動向を見てもわかっていることであ  
りまして、ぜひともその実現ができように、これ

からも努力してまいりたいと考えております。

○議長（村田千鶴子議員） 岡村さん。

○1番（岡村 歩さん） ありがとうございます。

それでは、2つ目のテーマについての再質問で  
す。現代の子供たちは初潮年齢が早くなっていた  
り、幼児からインターネットに接する機会が多く  
なったりしているということもあり、性にかかわ  
る授業や情報との付き合い方についての教育をも  
っと低年齢から開始してもらいたいと感じていま  
す。希望する親子向けにそういった教育や性犯罪  
に遭わないための講座などを開催していただくこ  
とは可能でしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 畑教育部長。

○教育部長（畑 活年） 子供の生きる力の基礎的  
な資質や能力、こうしたものを培うためには、ま  
ずは家庭の教育力、こちらの向上を図ることが大  
切だと考えております。このため市の教育委員会  
におきましては、初めてゼロ歳児を持つ親の講座、  
あるいは幼児や児童を持つ親の講座など各年齢層  
に応じた家庭教育講座、こうしたものは実施して  
いるところであります。今後につきましては岡村  
さんからの御意見等を踏まえまして、性犯罪に遭  
わないための講座の開催など、こうしたことにつ  
きましても研究していきたいと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） 今の岡村さんの御質問は幼  
児期における講座の開設ということだと思います  
が、少しつけ加えをさせていただきたいと思いま  
す。それは幼児期ではないですが、小・中学校に  
おいては警察官を招いての防犯教育とか、それか  
ら通学路の安全点検等の中で、危険な場所の確認、  
それを共有するというようなこともする中で、子  
供たちの被害に遭わない、安全に対する教育とい  
うのも行っているということをつけ加えさせてい  
ただきます。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 岡村さん。

○1番（岡村 歩さん） では最後に、自分の意見を述べさせていただきます。助産院の開設には助産師や嘱託医の確保など困難な状況があることは理解いたします。それでも私は助産院という存在は必要だと思っています。市にとっても助産院の開院によって保健センターが妊産婦の情報を得ることができれば、早期から働きかけることで本人やその家族の孤立を防ぎ、虐待等の防止にもつながるような支援ができるのではないのでしょうか。支援センターや産前産後ケアセンターの役割を持つ、地域に根差した助産院が子育てを地域で支え、人と人をつなぎ、さまざまな地域活動に貢献する核となる場になると考えます。助産師会や医師会などの協力を得て、ぜひ島田市に助産院が開業されるよう要望します。

次に性教育についてですが、私は恥ずかしがらない幼少のころから年齢に合わせてオープンに伝える環境をつくっていくことで、性について話すハードルを下げたいと考えています。自分の子供に、あなたは愛されて産まれてきたのだと伝えられるようにしたいし、そのためにも親自身が子供への伝え方のノウハウを知る機会が必要だと思います。親の意識が変われば、子供も変わります。市や学校に頼りっぱなしではなく、親が中心となって地域ぐるみで子供たちに性教育という知識のお守りを渡してあげられたらと思っています。今後、きっかけづくりとして性教育のお話し会を開催してみたいと考えています。市にも御支援をいただけたらうれしいです。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。本日は、このような場に参加させていただきありがとうございました。